

科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

(251)

3 類型から15 年

英国王立協会と米科学振興協会(AAAS)が2010年に発表した報告書「New Frontiers in Science Diplomacy」は、科学と外交の動機を併せ持つ取り組みを概念化した。このような取り組みは以前からあったが、「外交における科学、科学のための外交、外交のための科学」という3類型の提唱により、欧米や日本を中心に拡大した。

24年1月、両協会はAAASが発行する学

術誌「Science Diplomacy」で、3類型の提唱から15周年となる25年に

シンガポール、英国など11の国および地域の聴衆も交えて議論し、多くの示唆を得た。

新しい枠組みへ

シンポジウムで共有された意見に共通して

また、議論を国家戦略に反映、さらに戦略を実践へとつなげるこ

また、議論を国家戦略に反映、さらに戦略を実践へとつなげるこ

科学技術外交

概念更新に議論進む



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(科学技術外交グループ) 高野 凌太郎

明治大学農学部卒業後、19年に科学技術振興機構に入職。国際関係の渉外・渉内調整業務、産学官連携事業担当を経て、24年より現職。主に科学技術外交、科学技術政策に関する海外動向調査を担当。

関連する議論の場(主要なものをCRDSでリスト化)

2023

- 9月: G20首脳サミット、首席科学顧問円卓会議(インド)
- 10月: 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)(京都)
- 12月: 第1回欧州科学外交会議(スペイン)

2024

- 2月: 米科学振興協会(AAAS)年次総会(米国)
- 3月: 科学技術外交シンポジウム(東京)
- 5月: 政府科学助言国際ネットワーク(INGSA)会議、外務大臣科学技術顧問ネットワーク(FMSTAN)会合(ルワンダ)

2025

時代に合わせた科学技術外交の枠組みへ

を推進する必要性を確認した。国の研究支援プログラムなどに関する資金配分を行う機関の役割は大きい。今後、科学技術外交の新しい枠組みについて、国際的に議論が進むことが期待される。

(金曜日に掲載)